

## 九州ブロック会議（平成29年7月27日～28日・鹿児島県：ホテルパレスイン鹿児島）

参加者は約150名。総会では、開会にあたり主催者あいさつとして、九州ブロックを代表し岩本仁九州ブロック協議会会長・福岡県会長、続いて、全専各連の小林光俊会長からあいさつが述べられた。次に開催県である神村慎二鹿児島県会長からのあいさつ、鹿児島県の三反園訓知事（代理）の来賓祝辞、来賓及び九州各県会長紹介がおこなわれた後、宮下朝一鹿児島県副会長が議長に選出され、総会議事に入った。

総会では、①平成28年度事業報告及び決算報告、②各県提出議案について、③宣言文採択の各議案が上程され、全ての議案が全会一致で承認された。

引き続き中央情勢報告として、文部科学省専修学校教育振興室の星川正樹室長補佐が、昨年発生した熊本地震について言及し、今後も文科省として必要な措置を講じていきたいと述べた後、配布資料に基づき、新たな高等教育機関（専門職大学・専門職短期大学）の制度化について、また専修学校の振興施策として、平成29年3月に公表された、これからの専修学校教育の振興のあり方について（報告）のポイント、今年度の文科省専修学校関係予算の概要および職業実践専門課程、ジョブ・カード制度等について解説。全専各連事務局からは活動状況報告が行われ、全専各連の運動方針を述べるとともに、専門職大学・専門職短期大学の設置基準案について、特に現行の大学制度との相違点について説明が行われた。最後に、赤池誠章参議院議員が駆けつけ、職業教育の振興策については着実に進展していること、今後より一層尽力していくとの決意が述べられ総会は閉会した。

休憩後、研修会が開催され、大野寿子メイク・ア・ウィッシュオブジャパン理事を講師に迎えて、「夢に向かって一緒に走ろう！」をテーマに、メイク・ア・ウィッシュオブジャパンの活動が紹介された。

小憩後、懇親会を開催し初日を終了、翌日、視察研修が行われ全ての日程が終了した。

なお、採択された大会宣言決議文は次のとおりである。

### 全専各連九州ブロック大会 大会宣言

平成29年 7月27日

全国専修学校各種学校総連合会  
九州ブロック大会(鹿児島大会)

専修学校が法制化され41年を迎えましたが、この間、社会構造の変化や価値の多様化、情報社会の進展など、国民生活を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。

一方、少子化に伴う18歳人口の減少や、経済のグローバル化の進展は著しいものがあります。

こうした中、我々専修学校各種学校は、より高度な専門技術・技能の習得を目指す高等教育機関として今後とも社会に貢献できる人材育成に努めてまいります。

本日、この九州ブロック大会において下記事項を行政当局及び全国専修学校各種学校総連合会に対して強く要望するとともに、併せてそれぞれの九州ブロック内の各会員校が自らの課題解決に取り組み、社会的責任を果たしていくことをここに宣言します。

## 記

### 1 国、県等の行政機関への要望

- (1) 平成31年度開学予定の「専門職大学」については、地方創生の観点からも地方に配慮した設置を求める。
- (2) 「職業実践専門課程」を通じた専修学校の振興及び質的保証・向上の取組へのより一層の支援を求める。
- (3) 大規模災害に際して、被災した専修学校及び各種学校に対し、一条校と同様の措置が講じられるように、激甚災害法の改正を求める。
- (4) (独)日本学生支援機構では平成29年度に経済的理由による進学断念者の進学を後押しする奨学金制度の大幅な拡充が図られた。今後もより一層、授業料減免や奨学金返還の一部公的負担等の修学支援の拡充を求める。
- (5) 平成29年度が最終年度となる「専門学校生への効果的な経済的支援の在り方に関する実証研究事業」においては、授業料減免に対する補助制度の恒久化に向けた取り組みを求める。

### 2 全国専修学校各種学校総連合会への要望

全専各連に地方の意見を反映させるため、全専各連役員、委員会委員等に九州ブロック内の人材の登用を引き続き積極的に行うことを求める。

### 3 九州ブロック内の各会員校の社会的責務の遂行に向けて

- (1) 各学校が教育の質保証・情報公開・法令遵守等に真摯に取り組み、公的な教育機関としての説明責任を果たしていく。
- (2) 実践的な職業教育機関として、若年者や離職者の雇用対策の一翼を担うとともに社会人の学び直しとして、広く活用されるよう地域社会に積極的に貢献する。
- (3) アジアに近接した九州ブロックの地理的特性を活かし、国際社会で活躍し、我が国の将来に貢献できる視点を持った人材の育成と先見性に富む学校経営に心がける。